

科学史技術史通信

特定非営利活動法人
科学史技術史研究所

田中・山崎・飯田・菊池・道家文庫

No.9

2010.8.20

157-0027 東京都中野区野方1丁目29番1-B101

Website URL: <http://ihst.jp/> e-mail: ihst@ihst.jp



チューリヒ・Niederdorfer 通りの民家壁に「設置」された日時計。ヨーロッパには、日時計がよくみられる。この日時計は、10月中旬のこの時刻では正確な表示であった。



上図は、Schaffhausen のドーム裏にある日時計。

を意味し、やがて時刻を示す道

いる。

ちなみに、今日跡づけられる最古の日時計はBC14C エジプトの<き針>で、鉛直棒で太陽高度を測るものといわれる。四分儀由来語の cadran は、地平線上天体高度を読む四分円

具を指すようになって

道家先生、宇田川榕庵を語る

井原 聡

本研究所副理事長で日本科学史学会会長の道家達将東京工業大学名誉教授はキャンパス・イノベーションセンター(港区、田町駅隣接)で、去る4月24日開催された、日本科学史学会主催の「科学史学校」第23期—科学史に学ぶ現代の科学技術—で「宇田川榕庵」についてご講演された。本研究所に関わりの深い先生のご講演を記録にとどめるために、35人程の聴衆の一人として末席を汚したので、理解し得た範囲でその概略をお知らせいたします。



ご講演では、はじめに、先生が「なぜ科学史研究の道に入ったのか」についてその概略が語られました。広島での原爆体験を経て、名古屋大学での江上不二夫先生(1910年～1982年、生化学者、元日本学会会議会長、名古屋大学教授、東京大学教授)に学んだことや、隣接したW研(坂田昌一先生1911年～1970年、物理学者)での研究生時代を通して、科学と核兵器の問題、そして科学・技術とは何かを考えることの大事さを会得し、科学史を勉強されたこと。また、日本における自然科学研究の文化史的研究の先駆者としての山崎一雄先生(名古屋大学名誉教授、1911年～2010年、錯体化学、考古化学の確立者、日本学士院恩賜賞受賞)の講義で宇田川榕庵を知ったことなど、若き時代の道家先生の学究的、精神的遍歴の一断面が語られました。

ついで榕庵先生のお墓の探索と発見、我が国近代科学の創始者ともいえる宇田川家三代(玄随、玄真、榕庵)の墓と末裔小森家を突き止められて合葬にいたった経緯、宇田川家の系譜、榕庵先生の小川鼎三博士、鈴木尚博士ら東大医学部解剖学教室による骨の鑑定、津山市泰安寺移動など根気のいる長い間の調査活動などが語られました。

さらに「宇田川榕庵—その生涯と業績—」について配付資料にもとづき詳細な解説がなされ、14時から16時までの2時間があったというまに終わってしまいました。2時間を超えるお話を圧縮し、歪めてしまった点があると思いますが、御寛恕下さい。



4月24日 会場風景

以下の頁は、会員配布用の印刷体にてご覧になれます。
内容は、以下の通りです。

海外 短信

8月6日、リバモアの平和集会に参加して

日野川 静枝



有刺鉄線のついたフェンスに貼られたポスター



トラックの荷台で語る嵐森貴士さん



リバモアの空に響く和太鼓の音



フェンスの中、彼方に見える研究所

参考情報：欧文科学史技術史関連
既刊・新刊紹介

8点紹介

… 最近の科学史技術史関連の各種各団体の研究会から……………

ドイツ自動車文化の発展と日本

鈴木孝(日野自動車元副社長)

主催：日本文化交流協会 2010年6月17日
於秋葉原・首都大学東京キャンパス

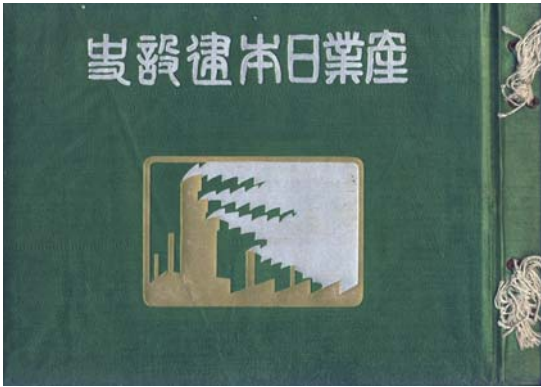
◆◆◆ 本研究所蔵書から ◆◆◆

小倉金之助『数学者の回想』を読んで
安孫子誠也

小貫修一郎『産業日本建設史』

恒川 清爾

伊勢朝報社, 昭和12年刊 本文:1章72頁, 2~17



研究所の諸史資料の利用の仕方については、.....

- (1) 史資料は、貴重なものの管理はきちんとして、基本的にすべてを会員・市民にオープンに。
- (2) 会員は、常時 24 時間体制で、必要なときはいつでも自由に利用可能。
- (3) 一般市民は、事務局もしくは会員との連絡の上で、利用可能 になります：この項・pdf 化に当たって、12.8 追記・木本)



「徳川時代の農業及畜産業の発達」の頁



近代産業編の「人造肥料工業の発達」の頁



特定非営利活動法人
としての 第1回総会

2010年7月31日 開催

地球技術研究所荒川会員から生花の贈呈。
 写真は、いずれも井原会員撮影